

はじめに

現在、歯科において、レーザーやLEDをはじめとする光エネルギーの応用が進展しつつある。歯科治療は、長年、機械的療法(mechanical therapy)を中心として発展してきたが、近年、一部の感染性・炎症性の疾患には化学療法(chemotherapy)が用いられ、さらに広義の意味で光エネルギーを用いた治療法(光療法；phototherapy)が徐々に導入されて、機械的療法を中心に複合的に用いられつつある。

今日、レーザーは光療法の一つとして、その優れた臨床効果により、歯科治療における有効な手段の一つと認識されている。各種の高出力レーザーが、それぞれの特徴を生かし、治療の容易化・効率化や治癒促進、治療成績の向上、治療に伴う術中および術後の患者の疼痛や不快感の軽減を目的として、軟組織や硬組織のマネージメントに効果的に用いられている。レーザーを導入することで治療のレベルアップも期待されている。これらの効果は、まだ充分なエビデンスによって裏付けられたものではないが、多くの臨床家により経験的に理解されているところである。

現在、世界的にみても、わが国では一般の歯科医院においてレーザー装置がかなり普及し、その臨床応用が進んでいる状況にある。しかしながら、残念なことに歯科用レーザーに関する系統的な大学教育はほとんど行われていない。そのようななか、本書『歯科用レーザー120%活用術』は、レーザー臨床において第一線で活躍されている優秀な先生方のご協力を得て、デンタルダイヤモンド社の「よく・わかる」シリーズの一巻として編纂された。小著ではあるが基本的情報がコンパクトに網羅され、かつ内容および症例が豊富で、適切な考察やアドバイスを充実し、初学者からベテランの先生にも役に立つ有益な情報が満載されていると思われる。

本書が、歯科医師の先生方およびそのスタッフの皆様において、日常のレーザー臨床に有効に活用していただけるのであれば、編著者一同の喜びである。